

健康通信

問合先 市民病院 (☎ 76 - 4131)

尿検査の「蛋白尿」 を見逃していませんか？ —慢性腎臓病（CKD）の早期発見のために—

尿検査で「蛋白尿」を指摘されたことはありませんか。症状がないため見過ごされがちですが、蛋白尿は腎臓からの大切なサインである可能性があります。

慢性腎臓病（CKD）は、現在では**成人のおよそ5人に1人**にみられるといわれている、とても身近な病気です。しかし初期にはほとんど症状がなく、「沈黙の臓器」とも呼ばれています。むくみや倦怠感などの症状が出るころには、すでに腎臓の働きがかなり低下していることも少なくありません。

さらにCKDで重要なのは、腎臓だけの病気ではないという点です。腎機能が低下すると、心筋梗塞や脳梗塞などの心血管疾患のリスクが高くなることが知られています。腎臓を守ることは、心臓や血管を守ることもつながります。

CKDの原因として多いのは、糖尿病や高血圧などの生活習慣病です。これらの病気が長く続くことで、腎臓に少しずつ負担がかかり、気づかないうちに腎機能が低下していきます。

CKDを見つけるために大切なのが「血液検査」と「尿検査」です。

◆ eGFR（推算糸球体濾過量）

血液検査から計算される、腎機能を示す指標です。eGFRが60未満の場合、腎機能が低下している可能性があります。

腎臓内科 部長医師 **唐澤 宗稔**

◆ 蛋白尿（腎臓からのSOS）

尿検査で分かる重要なサインです。尿に蛋白が出ている状態（蛋白尿）は、腎臓に負担がかかっている可能性があります。**蛋白尿は「腎臓からのSOS」ともいえる大切なサインです。**

蛋白尿は症状がないため見過ごされがちですが、注意が必要なサインです。蛋白尿が続いている場合には、腎臓の病気が隠れている可能性があります。健診や医療機関で蛋白尿を指摘された場合は、放置せず一度病院を受診し、確認することが大切です。

近年は、腎臓を保護する効果が期待されるSGLT2阻害薬などの新しい治療薬も登場しており、早期に治療を開始することで腎機能の低下を遅らせることが可能になってきました。

慢性腎臓病は、早期発見と早期治療が将来の健康を大きく左右する病気です。糖尿病や高血圧がある方、腎機能や尿検査の異常を指摘された方は注意が必要です。

日本では現在、約35万人が透析治療を受けています。透析に至る前の早い段階で見つけ、治療することがとても大切です。

症状がない今こそ、腎臓を守る大切な機会です。尿検査の異常を指摘された方は、まずはかかりつけ医にご相談ください。必要に応じて当院腎臓内科の専門医が診療を行います。

病院ホームページ▶

